

2025 年度

佐賀大学学校推薦型選抜Ⅰ試験問題

教育学部

学校教育課程

(幼小連携教育コース)

小論文

解答上の注意事項

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 「解答始め」の合図があったら、解答紙の所定欄に受験番号を記入すること。
- 3 問題の解答は、別に指示がある場合を除き、所定の解答欄に記入すること。
- 4 問題について、質問がある場合は、手を挙げて質問を行うこと。
- 5 問題紙、下書き用紙は持ち帰ってはならない。
- 6 その他、監督者の指示に従うこと。

【問】次の文章は、著者がアメリカの公立学校の通常学級を見学した際に、行動的・情動的に難しい小学3年生の子どもが他の子どもにからかわれ大声を出した時に「タイムアウト」という手法の対応がとられた場面について述べたものです。あなたが先生なら、このような場面でどのように対応しますか、理由を含めて800字以内で述べなさい。

日本とアメリカの教室には、同じ部分はあるつつも、いろいろな違いがあります。その1つに、問題行動を起こしたときの対応があります。アメリカでは、子どもが問題行動をしたときに、タイムアウトという対応がしばしばとられます。

タイムアウトとは、子どもが「悪い」ことをしたときに、教室や遊んでいる部屋から移動させて、別室に連れていき、なぜ連れていかれたのかを、子どもに説明する指導です。様々なバリエーションがありますが、少なくともアメリカでは、家庭や学校で、一般的なものとされています。

ある公立小学校・通常学級に見学に行ったとき、このタイムアウトを目撃しました。小学校3年生の子どもが、他の子どもにからかわれ、大声を出しました（と言っても耳をふさぐような声ではありません）。行動的・情動的に難しい子どもだそうです。先生が一言二言注意してもおさまりません。すると、先生は、教室の壁にあるボタンをさっと押します。すると、教室に備え付けられたマイクから「何かありましたか？」との声。先生が、「今すぐ来てください」と、その人を呼びます。すると屈強そうな男の人が現れ、その子どもをさっと連れていきました。その子は最初、廊下で大声を出していましたが、結局、別室に連れていかれました。

また、家庭では、タイムアウト用の椅子が用意されているところも多いようです。タイムアウトの時間は、「1歳では1分、2歳では2分、3歳では3分」というのが一般的なようです。かんしゃくを起こしたとき、2歳の子どもであれば、その椅子に2分じっと座って反省(?)するようなしつけです。

このタイムアウトの指導を見て、正直びっくりしました。日本の小学校の多くは、大声を出す子どもがいても、すぐに部屋を連れ出すことはまれでしょう。それに比べ、アメリカは、何ともあっさりしていてびっくりしました。また、他の子どもの手前、そんな簡単に「別室指導」を行ってもいいのか、何だか見ているほうがドキマギしました。

衝撃を受けつつも、タイムアウトの指導には、よい点があるなと感じました。まず、先生方が感情的になっていません。興奮している子どもに「やめなさい!」と怒ったり、くどくどお説教を言えば言うほど、子どもは興奮することがよくあります。冷静に対応することで子どもが落ち着くことができます。実際、別室から帰ってきた子どもたちは、落ち着いて再び学習に取り組んでいました。また、他の子どもも、別室に連れていかれた子どもを気にしている様子はありません。日常茶飯事だからなのか、そもそも「人と違う」ことがそれほど気にならないのか、そのあたりはよくわかりませんが、いずれにせよ、その

別室に行った子を茶化したり，逆に慰めたりする様子もありませんでした。「私は私，あの子はあの子」という様子でした。

一方で，違和感が残ったのも事実です。1つは，別室にいる間，子どもはどのように反省しているのかわからないところです。(中略)

2つ目は，より本質的な理由です。タイムアウトの指導には対話が欠けているという点です。(中略)

「問題行動がおさまればどちらでもいいじゃん」という声があるかもしれません。確かに「落ち着く」「じっとする」といった結果は，同じかもしれません。しかし，プロセスが決定的に違います。だとすれば，子どもの中に残るものも違います。私としては，他者との関係性を豊かにしていく中で育つ自己コントロールに，教育の意味があるように感じています。

〔出典〕赤木和重(2017)『アメリカの教室に入ってみた 貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで』ひとなる書房。

* 出題に際して，一部を抜粋し，文章を再構成しています。